

1. 学校の教育目標

心ゆたかに たくましく

豊かな感性をもち表現する子どもを育てる。 自分も友達も大切にする子どもを育てる。
自ら考え、生き生きと遊べる環境をつくる。 一人ひとりの発達の特성에応じた総合的な指導を行う。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ①今年度努力目標 「幼稚園っていいな 友達っていいな ～自然とふれあう中で心を動かし、考え、伝え合う関係を育むための環境を考える～」の達成に向けて、自然と直接触れる体験を通して、自分から関わり、試し、友達と考え合い、伝え合う環境を考え、保育に取り組む。
- ②家庭、地域との連携では、参観、行事の内容を見直す。また、幼小中合同会議に参加して情報発信する。
- ③職員の資質向上については、園内研修の充実を図る。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
①教育課程の編成。	B	自然と触れ合う中での学びを探り、コロナ感染防止の為の新しい生活様式を取り入れながら、クラスの実態に合わせて指導計画を作成して保育を進めた。
②家庭、地域との連携。	B	参観の内容を工夫し、オープン幼稚園に取り組んだ。日程を早めに知らせ、保護者の戸惑いを少なくした。幼小中定例会に参加した。
③職員の資質向上。	B	園内研修にて、幼児期の終わりまでに育てほしい「10の姿」や資質能力の「3つの柱」を視点に子供の姿を分析した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染防止の為の対処をして、常に見直しながら、安心して安全な園生活を過ごせるように努力した。年齢やクラスの実態に合わせたクラス運営ができた。今後もこども園3年目の実態を踏まえ教育課程の編成、実践、保育内容充実に努力する。 ・参観その他行事の中止、日程調整など変更が多々あったが、制限を生かした取り組みに保護者からの理解と協力を得て連携することができた。 ・各年齢の発達段階や自分の保育を見直し、適切な援助や環境、教材など具体的に考え、協議することで、職員の資質向上につながった。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A:十分に達成されている B:達成されている C:取り組まれているが、成果が十分でない D:取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理体制の確立	緊急時における対応及びコロナ感染防止や安心して安全な園生活を過ごす為の取り組みをする。
努力目標達成	各年齢に合った発達課題を見直し、一人ひとりの持ち味を大切にしながら集団作りに取り組む。
職員の資質向上	昨年度作成した教育課程を踏まえ、実践力を高める園内研修の充実を図る。